科目名【英】	経営マネジメント Office Management			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単　位	2
学　年	3	学　期	前期	曜　日	土曜日	時　限	5

担当教員	内藤　睦	実務者経験	

学習内容	一人ひとりが社会的・職業的に自立し、自分らしく生きる力を育てるために 仕事、社会、学び、計画の重要性などについて深く考え、自己分析・資料作成・グループワークを通じて 表現する力を養い、キャリアプランニングを行う。
到達目標	一人ひとりが社会的・職業的に自立し、自分らしく生きる力を育て、より良いキャリアにつなげる

準備学習 時間外学習	課題提出にあたって、復習を推奨。
使用教材	各科目に合わせたレジュメを使用する。
留意点 備　考	本講義は、資料作成・グループワークを交えた授業を実施するため、毎回積極的な参加が求められる。

成績評価	内藤：筆記（20%）、布施：筆記（80%）　　※内藤先生の筆記試験は授業内で行い再試験はなし

授業計画　【テーマ・内容･目標】			
1		仕事について考える キャリアとは	仕事、キャリアについて知る。 考え、行動することの大切さを知る。
2		仕事と社会 キャリアプランニングとは	変化する社会状況の中で、将来、仕事がどうなるか考える。 キャリアプランについて知る。
3		仕事と人生 ライフプランニングとは	テクノロジー、人口動態、社会情勢、ライフイベントなどに 起こる仕事の変化を考える。
4		なぜ仕事をするか、 なぜ学ぶのか これまでの自分について考える	よって、仕事すること、学ぶことについて考えを深める。 キャリアプランのため、自分の棚卸しをする。
5		情報活用力について これからの自分について考える	正確な情報収集、判断、活用の大切さを知る。 自己PR、話の聞き方について学ぶ。
6		キャリアを考える	将来を想像し、自分らしい仕事について考えることで キャリアプランの重要性に気づく。
7		キャリアプランニング テスト	今後のキャリアイメージやプランニングを考え、目標設定する。
8		療養費の支給基準１	【布施】 療養費、医療費、国民医療費について説明ができる。
9		療養費の支給基準２	【布施】 初検料、初検時相談支援料、往療料について説明ができる。
10		療養費の支給基準３	【布施】 骨折脱臼における近接算定について説明ができる。
11		療養費の支給基準４	【布施】 受領委任の取り扱いについて説明ができる。
12		療養費の支給基準５	【布施】 保険施術、療養費の請求について説明ができる。
13		療養費の支給基準６	【布施】 施術録について説明ができる。
14		療養費の支給基準７	【布施】 柔道整復施術療養費、支給申請書について説明ができる。
15		試験・解説	【布施】 総合試験と解説

科目名【英】	関係法規 Legal Issues in medicine			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単　位	2
学　年	3	学　期	前期	曜　日	金曜日	時　限	7

担当教員	林　宏明	実務者経験	2004年4月～2009年3月　鍼灸接骨院に所属し、施術をおこなう

学習内容	柔道整復師業務に従事する上で必要な法令、法規を学ぶ。
到達目標	柔道整復師業務に従事する上で必要な法令、法規を説明することができ、適正な柔道整復師業務を行うことができるようになる。

準備学習 時間外学習	関係法規の予習が必要。
使用教材	教科書『関係法規』、配布プリント
留意点 備　考	

成績評価	期末試験100%で評価する。

授業計画　【テーマ・内容･目標】			
1		法の体系	法の体系について説明することができる。
2		患者の権利	患者の権利について説明することができる。
3		医療過誤とリスクマネジメント	医療過誤とリスクマネジメントについて説明することができる。
4		柔道整復師法の目的・定義	柔道整復師法の目的・定義について説明することができる。
5		柔道整復師免許	柔道整復師免許について説明することができる。
6		柔道整復師名簿	柔道整復師名簿について説明することができる。
7		柔道整復師免許証	柔道整復師免許証について説明することができる。
8		合格証書、合格証明書	合格証書、合格証明書について説明することができる。
9		業務範囲と禁止	業務範囲と禁止について説明することができる。
10		施術所	施術所について説明することができる。
11		広告、罰則	広告、罰則について説明することができる。
12		医療法	医療法について説明することができる。
13		指定登録機関、指定試験機関	指定登録機関、指定試験機関について説明することができる。
14		社会福祉関係法規	社会福祉関係法規について説明することができる。
15		試験解説	前期試験解説

科目名【英】	柔道４ Judo 4			必修/選択	必修	授業形式	実習
				総時間数	30	単　位	1
学　年	3	学　期	前期	曜　日	木曜日	時　限	5

担当教員	中村　義毅	実務者経験	1997年5月整骨院を開業し現在に至る。 同整骨院にて柔道整復術を行う。

学習内容	柔道の技術と礼儀作法を学び、投げの形を習得する。
到達目標	柔道を通して、技だけではなく礼儀作法に重点を置き社会人基礎力を習得する。 投げの形が出来るようになる。

準備学習 時間外学習	1.2年次に履修した礼法、受け身などを授業前に予習しておく
使用教材	柔道衣
留意点 備　考	準備運動としてストレッチや受身をとり外傷を予防する。

成績評価	実技評価100%

授業計画　【テーマ・内容･目標】			
1		形（腰技）１	礼法、受身、浮腰を行うことができる。
2		形（腰技）２	礼法、受身、払腰（右）を行うことができる。
3		形（腰技）３	礼法、受身、払腰（左）を行うことができる。
4		形（腰技）４	礼法、受身、釣込腰（右）を行うことができる。
5		形（腰技）５	礼法、受身、釣込腰（左）を行うことができる。
6		形（腰技）６	腰技を左投、右投を行うことができる。
7		形（足技）１	礼法、受身、送り足払い（右）を行うことができる。
8		形（足技）２	礼法、受身、送り足払い（左）を行うことができる。
9		形（足技）３	礼法、受身、支え釣り込み足（右）を行うことができる。
10		形（足技）４	礼法、受身、支え釣り込み足（左）を行うことができる。
11		形（足技）５	礼法、受身、内股（右）を行うことができる。
12		形（足技）６	礼法、受身、内股（左）を行うことができる。
13		形（足技）７	足技を左投、右投を行うことができる。
14		復習	礼法、形、約束乱取の練習 卒業実技試験の進行を理解して指示通りに行うことができる。
15		復習	礼法、形、約束乱取の練習 卒業実技試験の進行を理解して指示通りに行うことができる。

科目名【英】	柔道概論 Introduction of Judo			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単　位	2
学　年	3	学　期	前期	曜　日	金曜日	時　限	5

担当教員	水谷　遼香	実務者経験	2017年～2019年鍼灸整骨院、リハビリデイサービスにて柔道整復師、機能訓練指導員として従事。

学習内容	1年生で履修した柔道整復学総論の国家試験対策としての復習を行っていく。
到達目標	柔道整復学総論と各論を結びつけ、引き出すことができ、柔道整復師国家試験に対応できるレベルに到達する。

準備学習 時間外学習	教科書を読んで予習・復習しておく。
使用教材	柔道整復学理論編第７版、柔道整復学実技編第２版、配布プリント
留意点 備　考	

成績評価	筆記試験100%

授業計画　【テーマ・内容･目標】			
1		柔整総論１	骨損傷（分類、症状） 分類・症状の落とし穴となっているところを見直し、過去問題を解くことができる。
2		柔整総論２	骨損傷（合併症） 各合併症の内容を見直し、過去問題を解くことができる。
3		柔整総論３	骨損傷（続発症） 各合併症の内容を見直し、過去問題を解くことができる。
4		柔整総論４	骨損傷（後遺症） 各合併症の内容を見直し、過去問題を解くことができる。
5		柔整総論５	骨損傷（小児・高齢者骨折の特徴．癒合日数．治癒経過．予後．影響因子） 年齢での治癒の違いと、影響因子を理解し、過去問題を解くことができる。
6		柔整総論６	関節損傷（構造．分類．関節構成組織損傷） 関節構成組織を見直し、過去問題を解くことができる。
7		柔整総論７	脱臼（分類．症状．合併症．整復障害．予後） 分類・症状などの落とし穴となっているところを見直し、過去問題を解くことができる。
8		柔整総論８	筋損傷と腱損傷 筋・腱損傷の特徴を捉え、過去問題を解くことができる。
9		柔整総論９	末梢神経損傷、血管系・リンパ系損傷、皮膚損傷 神経・脈管損傷の特徴を捉え、過去問題を解くことができる。
10		柔整総論１０	治療法（固定法．後療法） 固定法と後療法のポイントを見直し、過去問題を解くことができる。
11		柔整総論１１	評価、治療法（整復法．初期処置） 整復法と初期処置のポイントを見直し、過去問題を解くことができる。
12		柔整実技総論１	運動器系の疼痛を訴える患者の施術（損傷の診察、鑑別診断、合併症の有無、説明と同意） 診察の流れを把握することができる。
13		柔整実技総論２	運動器系の疼痛を訴える患者の施術（徒手整復、固定法、後療法、治癒の判定、予後） 整復から治癒に至るまでの流れを把握することができる。
14		柔整実技総論３	肩部の痛みを訴える患者の診察をするときの考え方 鑑別を行い、各疾患のを導き出すことができる。
15		試験解説	前期試験解説

科目名【英】	後療法学 Arter Treatment of injury			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	15	単　位	1
学　年	3	学　期	前期	曜　日	金曜日	時　限	6

担当教員	水谷　遼香	実務者経験	2017年～2019年鍼灸整骨院、リハビリデイサービスにて柔道整復師、機能訓練指導員として従事。

学習内容	外傷の経過および治療判断方法を学び、固定除去後の治療法を理解する。 また、臨床で診ることが多い軟部組織損傷の治療法を学ぶ。
到達目標	学んだことを臨床実習、卒業後の臨床で役立てるよう、説明、実施することができるようになる。

準備学習 時間外学習	教科書を読んで予習・復習しておく。
使用教材	柔道整復学理論編第７版、柔道整復学実技編第２版、解剖学第２版、配布プリント
留意点 備　考	

成績評価	筆記試験100%

授業計画　【テーマ・内容･目標】			
1		上肢疾患	肩部軟損（腱板損傷）について理解し、説明できるようになる。
2		上肢疾患	肩部軟損（腱板損傷）について理解し、説明できるようになる。
3		上肢疾患	肩部軟損（インピンジメント症候群、上腕二頭筋長頭腱損傷）について理解し、説明できるようになる。
4		上肢疾患	肩部軟損（上腕二頭筋長頭腱損傷）について理解し、説明できるようになる。
5		上肢疾患	肩部軟損（SLAP損傷、ルーズショルダー）について理解、説明できるようになる。
6		上肢疾患	肩部軟損（リトルリーガー肩）について理解し、説明できるようになる。
7		上肢疾患	末梢神経障害（ベネット損傷、腋窩神経、肩甲上神経）について理解し、説明できるようになる。
8		上肢疾患	末梢神経障害（橈骨神経）について理解し、説明できるようになる。
9		上肢疾患	末梢神経障害（正中神経）について理解し、説明できるようになる。
10		上肢疾患	末梢神経障害（尺骨神経）について理解し、説明できるようになる。
11		上肢疾患	肘関節部の軟損について理解し、説明できるようになる。
12		上肢疾患	肘関節部の軟損について理解し、説明できるようになる。
13		上肢疾患	前腕、手指の軟損について理解し、説明できるようになる。
14		上肢疾患	手指の軟損について理解し、説明できるようになる。
15		上肢疾患	手指の軟損について理解し、説明できるようになる。

科目名【英】	外傷予防理論実習２ Injury Prevention Conditioning Practices			必修/選択	必修	授業形式	実習
				総時間数	30	単　位	1
学　年	3	学　期	前期	曜　日	水曜日	時　限	7

担当教員	山本　将史	実務者経験	平成１４年４月より鍼灸整骨院開院　院長として勤務する

学習内容	運動生理学の観点から競技者の身体的変化を理解し、予防やトレーニングの基礎知識を習得、また実技により体得する
到達目標	運動生理学の基礎、ストレッチ、トレーニング、競技者の予防について理解を深める

準備学習 時間外学習	解剖学・生理学の復習
使用教材	競技者の外傷予防
留意点 備　考	

成績評価	筆記試験１００点満点

授業計画　【テーマ・内容･目標】			
1		運動生理学１	オリエンテーション　運動生理学いついて基礎的な内容と今後の勉強の進め方を理解する
2		運動生理学２	レジスタンストレーニング　持久力トレーニングについて　筋力トレーニングの基礎知識を理解する
3		運動生理学３	エネルギー代謝　ATP―CP系　解糖系　TCA回路　運動時のエネルギー代謝について理解する
4		運動生理学４	筋繊維タイプ　アイソメトリックコントラクション　アイソトニックコントラクション　筋線維の種類や筋収縮の様式を理解する
5		運動生理学５	呼吸中枢　最大換気量　最大酸素摂取量　AT LT　酸素借　運動時の呼吸について理解する
6		運動生理学６	循環　競技者の血圧　運動時の循環系についての理解を深める
7		運動生理学７	運動とホルモン　性ホルモン　運動時のホルモン分泌について理解する
8		運動生理学８	有酸素作業能力　間欠的作業能力　競技者の運動生理学的特徴について理解する
9		外傷予防概論１	外傷の発生要因　内的要因　外的要因について理解を深める
10		外傷予防概論２	外傷の予防対策　外傷予防の基礎知識を理解する
11		外傷予防実技１	タイトネステスト　関節弛緩性テスト　実際の検査法を理解し実践する
12		外傷予防実技１	アイシング　ストレッチング　実際の方法を理解し実践する
13		外傷予防実技１	スポーツマッサージ　スポーツテーピング　実際の方法を理解し実践する
14		外傷予防実技１	体幹強化トレーニング　下肢安定性向上トレーニング　肩甲帯トレーニングなど　種々のトレーニングについて方法を学び実践する
15		総復習	理論実技の総復習　理論実技ともに復習し理解を深める

科目名【英】	柔整外傷学実習１ Judo Therapy and Traumatology Practice1			必修/選択	必修	授業形式	実習
				総時間数	30	単　位	1
学　年	3	学　期	前期	曜　日	月曜日	時　限	7

担当教員	岩崎　英明	実務者経験	1997年より養成施設の付属治療所、付属整骨院で臨床する。□

学習内容	各種固定法、軟部組織損傷判別テストの習得
到達目標	卒業実技試験及び認定実技試験科目の実技の習得

準備学習 時間外学習	プリントによる予習、実習後の復習
使用教材	実技マニュアル、シナリオプリント
留意点 備　考	包帯、枕子など固定材料の準備物忘れに留意する。 副教材として柔道整復学理論編、実技編の教科書、固定法マニュアルを持参して受講する事が望ましい。

成績評価	実技審査１００%にて評価する

授業計画　【テーマ・内容･目標】			
1		ボクサー骨折の固定	シナリオに沿ってアルミ副子、包帯を使用しボクサー骨折の固定が出来るようになる。
2		肋骨骨折の固定	シナリオに沿って晒、厚紙副子を使用し肋骨骨折部の固定が出来るようになる。
3		第二PIP関節背側脱臼の固定	シナリオに沿ってアルミ副子、包帯を使用し第二PIP関節背側脱臼の固定が出来るようになる。
4		アキレス腱断裂の固定	シナリオに沿ってソフトシーネ、包帯を使用しアキレス腱断裂の固定が出来るようになる。
5		下腿骨骨幹部骨折の固定	シナリオに沿ってソフトシーネ、包帯を使用し下腿骨骨幹部骨折の固定が出来るようになる。
6		膝関節側副靭帯損傷の固定	シナリオに沿ってテーピングを使用し膝関節側副靭帯損傷の固定が出来るようになる。
7		足関節外側側副靭帯の固定	シナリオに沿って包帯、厚紙副子を使用し足関節外側側副靭帯の固定が出来るようになる。
8		足関節外側側副靭帯の固定（テーピング）	シナリオに沿ってテーピングを使用し足関節外側側副靭帯をバスケットウィーブ固定出来るようになる。
9		足関節外側側副靭帯の固定（テーピング）	シナリオに沿ってテーピングを使用し足関節外側側副靭帯をフィギアエイト固定出来るようになる。
10		足関節外側側副靭帯の固定（テーピング）	シナリオに沿ってテーピングを使用し足関節外側側副靭帯をヒールロック固定出来るようになる。
11		大腿四頭筋損傷検査法1、2、3	シナリオに沿って伸張時、収縮時（臥位）、収縮時（座位）疼痛誘発テストが出来るようになる。
12		ハムストリング損傷検査法1,2	シナリオに沿って伸張時、収縮時疼痛誘発テストが出来るようになる。
13		アキレス腱断裂検査法	シナリオに沿ってトンプソンテストが出来るようになる。
14		総復習	各種固定と軟部組織検査法を復習し認定実技審査レベルで出来るようになる。
15		総復習	各種固定と軟部組織検査法を復習し認定実技審査レベルで出来るようになる。

科目名【英】	柔整外傷学実習２ Judo Therapy and Traumatology Practice 2			必修/選択	必修	授業形式	実習
				総時間数	30	単　位	1
学　年	3	学　期	前期	曜　日	木曜日	時　限	7

担当教員	岩田　早紀	実務者経験	2013年4月～2017年3月　病院に所属 外来の物理療法をおこなう

学習内容	脱臼の診察法および整復法、固定法の座学、実習・実技
到達目標	脱臼の診察法および整復法、固定法を理解して説明することができるようになる。また、これらができるようになる。

準備学習 時間外学習	柔道整復理論・実技本・実技マニュアルを復習して、スムーズに実習に入れるように学習しておく。
使用教材	実技マニュアル、柔道整復学実技編 改定２版
留意点 備　考	副教材として柔道整復理論の教科書を持参して受講することが望ましい。

成績評価	卒業実技試験（脱臼整復）で評価する。

授業計画　【テーマ・内容･目標】			
1		オリエンテーション 肩関節脱臼１	肩関節脱臼の診察および整復、固定を理解し説明することができるようになる。
2		肩関節脱臼２	肩関節脱臼の診察および整復ができるようになる。
3		肩関節脱臼３	肩関節脱臼の診察および固定ができるようになる。
4		肩鎖関節脱臼１	肩鎖関節脱臼の診察および整復ができるようになる。
5		肩鎖関節脱臼２	肩鎖関節脱臼の診察および固定を理解し説明することができるようになる。
6		肘関節脱臼１	肘関節脱臼（肘内障含む）の診察および整復法ができるようになる。
7		肘関節脱臼２	肘関節脱臼（肘内障含む）の診察および整復法ができるようになる。
8		肘関節脱臼３	肘関節脱臼の固定を理解し説明することができるようになる。
9		上腕骨外科頸骨折	上腕骨外科頸骨折の診察および整復法ができるようになる。
10		肩関節部の検査法１	腱板損傷の診察および検査法ができるようになる。
11		肩関節部の検査法２	上腕二頭筋長頭腱損傷の診察および検査法ができるようになる。
12		総復習１	卒業実技試験に向けて診察および整復、固定ができるようになる。
13		総復習２	卒業実技試験の振返り、認定実技試験に向けた診察および整復、固定ができるようになる。
14		総復習３	認定実技試験に向けて診察および整復、固定ができるようになる。
15		総復習４	認定実技試験に向けて診察および整復、固定ができるようになる。

科目名【英】	柔整外傷学実習３ Judo Therapy and Traumatology Practice 3			必修/選択	必修	授業形式	実習
				総時間数	30	単　位	1
学　年	3	学　期	前期	曜　日	水曜日	時　限	5

担当教員	宮越　亮典	実務者経験	2006年４月から現在　接骨院勤務　鍼灸あんま及び接骨院全般の業務 2007年４月から2011年３月　病院勤務　機能訓練、鍼灸、整復固定の業務

学習内容	2022度版柔道整復師国家試験出題基準　必修問題基準の疾患について、診察および整復、固定を理論的に学ぶ。 柔道整復師に必要な項目を中心に、鑑別および実務を学ぶ。
到達目標	柔道整復師師国家試験に対応できるレベルに到達する。 実務における内容の理解と問題での柔軟性を得ることを目標とする。

準備学習 時間外学習	柔道整復学理論編　総論の範囲の予習が必要。
使用教材	教科書『柔道整復学・理論編』『柔道整復学・実技編』（南江堂）、配布プリント
留意点 備　考	

成績評価	期末試験80%＋小テスト(2回)20%で評価する。

授業計画　【テーマ・内容･目標】			
1		柔整学実習１	鎖骨定型的骨折　①診察及び整復　目標：必修問題への取り組み方の理解 鎖骨定型的骨折の診察及び整復の理解ができる
2		柔整学実習２	鎖骨定型的骨折　②固定 目標：鎖骨定型的骨折の固定の仕方が理解ができる
3		柔整学実習３	肩鎖関節上方脱臼　①診察及び整復　②固定 目標：肩鎖関節上方脱臼の診察及び整復、固定の仕方が理解ができる
4		柔整学実習４	肩関節烏口下脱臼　①診察及び整復　②固定 目標：肩関節烏口下脱臼の診察及び整復、固定の仕方の理解ができる
5		柔整学実習５	上腕骨外科頸骨折　①診察及び整復　上腕骨骨幹部三角筋付着部より遠位 骨折　②固定　目標：該当疾患の診察及び整復、固定の仕方が理解できる
6		柔整学実習６	小テスト1　肘関節後方脱臼　①診察及び整復　②固定　肘内障　①診察 及び整復目標：肘関節後方脱臼、肘内障の診察及び整復の理解ができる
7		柔整学実習７	コーレス骨折　①診察及び整復　②固定 目標：コーレス骨折の診察及び整復、固定の仕方の理解ができる
8		柔整学実習８	第５中手骨頸部骨折　②固定　肋骨骨折　②固定　示指PIP関節背側脱臼 ②固定　目標：該当疾患の固定の仕方が理解ができる
9		柔整学実習９	肩腱板損傷　①診察　上腕二頭筋長頭腱損傷　①診察 目標：該当疾患の診察が理解できる
10		柔整学実習１０	膝関節側副靭帯損傷①診察　②固定　膝関節十字靭帯損傷　①診察 膝関節半月板損傷①診察　目標：該当疾患の疾患または固定を理解できる
11		柔整学実習１１	大腿部打撲・肉離れ（大腿四頭筋、ハムストリング、下腿三頭筋） ①診察　目標：該当疾患の診察が理解できる
12		柔整学実習１２	小テスト2　アキレス腱断裂　②固定　下腿骨幹部骨折　②固定 目標：該当疾患の固定の仕方が理解できる
13		柔整学実習１３	足関節外側側副靭帯損傷①診察　②固定 目標：足関節外側側副靭帯損傷の診察及び固定の仕方を理解できる
14		柔整学実習１４	包帯法 目標：各包帯法の走行を把握と理解できる
15		試験解説	前期試験解説

科目名【英】	柔整外傷学実習4 Medical Practice of Judo Therapy 4			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単　位	2
学　年	3	学　期	前期	曜　日	火曜日	時　限	7

担当教員	山田　靖典	実務者経験	2001年～2008年まで整形外科勤務

学習内容	医学の基礎となる解剖学・生理学を通じ病態を把握できるように学習する また国家試験において重要となる内容を重点的に学習していく
到達目標	国家試験において担当範囲の80%の正答率を全員が獲得できるようにする また解剖生理を理解することで勉強の楽しさを知る

準備学習 時間外学習	配付資料による事前学習
使用教材	教科書『解剖学』（医歯薬出版）、『生理学』（南江堂）、『一般臨床医学』（医歯薬出版）、配布資料
留意点 備　考	授業では全員が傾聴できるようにし、小テストに向け自学自習を促せるようにする

成績評価	期末筆記試験70点　小テスト30点（授業内）

授業計画　【テーマ・内容･目標】			
1		消化器解剖生理	消化器の役割、大まかな働きを理解する。口腔について理解する
2		消化器解剖生理	食道から横隔膜について解剖の詳細と働きについて理解する
3		消化器解剖生理	胃・腹膜の解剖、消化吸収について理解する。また前回までの内容理解のため小テストを実施
4		消化器解剖生理	小腸の解剖について区別できるようになり消化吸収について理解する
5		消化器解剖生理	大腸の解剖を理解する。消化器全体の流れを理解する。消化器全体の復習小テストを実施
6		肝胆膵解剖生理	肝臓胆嚢膵臓の構造及び働きについて理解する
7		肝胆膵解剖生理	肝臓胆嚢膵臓の構造及び働きについて理解する
8		消化器疾患	一般臨床医学の消化器疾患について疫学・原因・症状・予後を理解する。
9		消化器疾患	一般臨床医学の消化器疾患について疫学・原因・症状・予後を理解する
10		消化器疾患	一般臨床医学の消化器疾患について疫学・原因・症状・予後を理解する
11		肝胆膵疾患	一般臨床医学の肝胆膵疾患について疫学・原因・症状・予後を理解する
12		肝胆膵疾患	一般臨床医学の肝胆膵疾患について疫学・原因・症状・予後を理解する
13		膠原病	膠原病について一般臨床記載内容を理解する
14		膠原病	膠原病について一般臨床記載内容を理解する
15		試験対策	前期末試験の解答解説
16		前期まとめ	前期実施した授業内容のポイント再確認

科目名【英】	柔整外傷学実習５ Judo Therapy and Traumatology Practice 5			必修/選択	必修	授業形式	実習
				総時間数	30	単　位	1
学　年	3	学　期	前期	曜　日	火曜日	時　限	5

担当教員	東　正美	実務者経験	H16/4-H19/3行岡専門学校・付属接骨院所属

学習内容	国家試験問題を題材にして、各領域の人体構造と機能を復習する。
到達目標	関連領域の国家試験問題を解答できる能力を養う。

準備学習 時間外学習	
使用教材	学校指定教科書　　生理学（南江堂）、解剖学（医歯薬出版）
留意点 備　考	

成績評価	学期末試験100%

授業計画　【テーマ・内容･目標】			
1		生理解剖学総論	身体の基本構造について復習する。
2		生理学総論	人体の基本構造と働きについて復習し理解を深める。
3		体液・血液の生理	体液の性質・特徴・役割について理解を深める。
4		体液・血液の生理	血液の性質・特徴について理解を深める。
5		循環	心臓の構造と働きについて理解を深める。
6		循環	体液・血液循環の調節について理解を深める。
7		呼吸	呼吸器官の構造・呼吸運動について理解を深める。
8		呼吸	血液ガスの体内動態について理解を深める。
9		尿の生成	泌尿器系の構造について理解を深める。
10		尿の生成	尿の生成と体液の調節について理解を深める。
11		神経系	神経系の各部の特徴と働きについて理解を深める。
12		神経系	神経の働きの基本について復習する。
13		神経系	神経系の機能と役割について復習する。
14		神経系	伝導路について復習し、関連疾患の症状と関連を理解を深める。
15		筋肉の構造と機能	筋肉の基本構造ついて理解を深める。

科目名【英】	臨床実習４ Clinical Training 4			必修/選択	必修	授業形式	実習
				総時間数	45	単　位	1
学　年	3	学　期	前期	曜　日	土曜日	時　限	6.7

担当教員	竹田　英樹	実務者経験	1997年5月～2003年3月　整形外科医院にて勤務。 2003年9月～2008年2月　The Sydney Shiatsu Clinicにて勤務。 2008年3月～現在に至る　東洋医療専門学校附属整骨院にて勤

学習内容	骨折の診察法及び整復法、固定法を実技を通じて学ぶ。軟部組織損傷の徒手検査法のメカニズムを実技を通じて学ぶ。
到達目標	臨床の場において実際に活用できるレベルに到達する。 軟部組織損傷の発生機序、検査法のメカニズムを理解し適切な徒手検査を行い、疾病を鑑別することができる。

準備学習 時間外学習	柔道整復学の予習及び復習が必要である。
使用教材	教科書『柔道整復学　理論編・実技編』（東洋療法学校協会編）　配布プリント
留意点 備　考	患者の有無により各傷病のシミュレーションを行う。

成績評価	出席評価

授業計画　【テーマ・内容･目標】			
1		ガイダンス・体表解剖	前期の実習内容、必要教材や教科書の使用方法、実技と必修問題対策、軟部組織損傷検査法、卒業実技試験・認定実技試験での損傷部位の確認。
2		体表解剖	卒業実技試験・認定実技試験での損傷部位の確認。
3		鎖骨骨折1	坐位整復法の要点と固定方法を実施できる。
4		鎖骨骨折2	坐位整復法の要点と固定方法を実施できる。。
5		上腕骨骨幹部骨折2	ミッデルドルフ三角副子を使用して固定方法を実施できる。
6		上腕骨骨幹部骨折2	ミッデルドルフ三角副子を使用して固定方法を実施できる。
7		コーレス骨折1	（牽引直圧/屈曲）整復法の要点と固定方法を実施できる。
8		コーレス骨折1	（牽引直圧/屈曲）整復法の要点と固定方法を実施できる。
9		鎖骨骨折3	復習：坐位整復法の要点と固定方法を実施できる。
10		上腕骨骨幹部骨折3	復習：ミッデルドルフ三角副子を使用して固定方法を実施できる。
11		コーレス骨折3	復習：（牽引直圧/屈曲）整復法の要点と固定方法を実施できる。
12		コーレス骨折1	復習：（牽引直圧/屈曲）整復法の要点と固定方法を実施できる。
13		軟部組織損傷の徒手検査法2	復習：①側副靱帯損傷　膝内反外反動揺テスト、牽引アプレイテスト、グラビティテスト ②十字靱帯損傷　引出/押込テスト、ラックマンテスト、サグサイン、N-テスト、グラビティテスト ③半月板損傷　マックマレーテスト、圧迫アプレイテスト、ワトソンジョーンズテスト
14		復習	卒業実技試験の実技の振返り
15		復習	認定実技審査での整復法・固定法・軟部組織損傷徒手検査法の実施時の注意点

科目名【英】	柔整医学演習１ Medical Practice of Judo Therapy 1			必修/選択	必修	授業形式	演習
				総時間数	15	単　位	1
学　年	3	学　期	前期	曜　日	月曜日	時　限	6

担当教員	松田　泰昌	実務者経験	2013年から整骨院にて整骨業務を行う

学習内容	現代医学的な観点から運動学を学ぶ柔道整復師としての必要な項目や幅広い視野をもち現代医学診断による病態把握を学ぶ
到達目標	運動学を学び、現代医学の臨床に応用可能な活用レベルにできる。かつ柔道整復師として国家試験に対応できるレベルに到達する

準備学習 時間外学習	解剖学生理学の予習が必要。運動学と外科学の関連性を把握する
使用教材	運動学　副材料として解剖学生理学を持参する
留意点 備　考	パソコン　マウス　使用

成績評価	試験９０%、小テスト１０%を加味する

授業計画　【テーマ・内容･目標】			
1		運動学概論	運動学の目的を理解し体の基本的構造を理解できる
2		運動学概論	運動の表し方を把握し説明を加え自ら説明する事が出来る
3		身体運動と力学	身体運動と力学(ベクトル、動体に働く力、てこの力　滑車　運動の法則)を理解し説明できる
4		運動の法則	運動の法則　質量　重量　力の単位を理解し説明する事が出来る
5		仕事と力学的エネルギー	仕事と力学的エネルギーを理解し仕事　仕事率　力学的エネルギーを説明する事が出来る
6		運動器の構造と機能	骨の構造　骨の構成要素　骨の発生と成長を理解し説明する事が出来る
7		関節の構造	骨とビタミン　ホルモン　関節の構造　関節の分類　骨格筋の構造を理解し説明する事が出来る
8		骨格筋の構造	筋収縮　運動単位　神経筋接合部を理解し説明する事が出来る
9		神経	神経細胞　神経線維　神経シナプス　自律神経を理解し説明する事が出来る
10		神経	中枢神経　脊髄　脳　錐体路と錐体外路を理解し説明する事が出来る
11		感覚	感覚と知性　感覚の種類　運動感覚　筋紡錘を理解し説明できる
12		反射	反射と随意運動　反射弓　反射の種類　反射中枢　連合運動を共同運動について説明する事が出来る
13		姿勢	姿勢重心立位姿勢安定性　抗重力筋　歩行周期　分析　歩行エネルギーについて説明する事が出来る
14		運動発達	神経組織の成熟　乳幼児の運動発達　全身運動　歩行運動について説明できる
15		試験解説	試験解説を行い、自分の弱点を見つけ出し克服する

科目名【英】	柔整医学演習２ Medical Practice of Judo Therapy 2			必修/選択	必修	授業形式	演習
				総時間数	15	単　位	1
学　年	3	学　期	前期	曜　日	火曜日	時　限	6

担当教員	東　正美	実務者経験	H16/4-H19/3行岡専門学校・付属接骨院所属

学習内容	国家試験問題を題材にして、各領域の人体構造と機能を復習する。 柔整外傷学実習５の授業内容を補足してより実践的な理解の定着を図る。
到達目標	関連領域の国家試験問題を解答できる能力を養う。

準備学習 時間外学習	
使用教材	学校指定教科書　　生理学（南江堂）、解剖学（医歯薬出版）
留意点 備　考	

成績評価	学期末試験100%

授業計画　【テーマ・内容･目標】			
1		生理解剖学総論	身体の基本構造について復習する。
2		生理学総論	人体の基本構造と働きについて復習し理解を深める。
3		体液・血液の生理	体液の性質・特徴・役割について理解を深める。
4		体液・血液の生理	血液の性質・特徴について理解を深める。
5		循環	心臓の構造と働きについて理解を深める。
6		循環	体液・血液循環の調節について理解を深める。
7		呼吸	呼吸器官の構造・呼吸運動について理解を深める。
8		呼吸	血液ガスの体内動態について理解を深める。
9		尿の生成	泌尿器系の構造について理解を深める。
10		尿の生成	尿の生成と体液の調節について理解を深める。
11		神経系	神経系の各部の特徴と働きについて理解を深める。
12		神経系	神経の働きの基本について復習する。
13		神経系	神経系の機能と役割について復習する。
14		神経系	伝導路について復習し、関連疾患の症状と関連を理解を深める。
15		筋肉の構造と機能	筋肉の基本構造ついて理解を深める。

科目名【英】	柔整医学演習３ Medical practice of judo therapy 3			必修/選択	必修	授業形式	演習
				総時間数	15	単　位	1
学　年	3	学　期	前期	曜　日	水曜日	時　限	6

担当教員	山本　将史	実務者経験	平成１４年４月より鍼灸整骨院開院　院長として勤務する

学習内容	整形外科学を中心として柔道整復学も含み国家試験に必要な知識を学習する
到達目標	国家試験に向けた知識の習得

準備学習 時間外学習	解剖学・生理学の復習
使用教材	整形外科学　柔道整復学理論
留意点 備　考	

成績評価	筆記試験１００％

授業計画　【テーマ・内容･目標】			
1		柔整医学演習１	オリエンテーション(心構えや勉強への取り組みを理解する)
2		柔整医学演習２	整形外科学領域における骨端症　先天性骨系統疾患についての基礎知識を学ぶ
3		柔整医学演習３	整形外科学領域における先天性骨系統疾患　全身性神経筋疾患の基礎知識を学ぶ
4		柔整医学演習４	整形外科学領域における全身性神経筋疾患　骨腫瘍についての基礎知識を学ぶ
5		柔整医学演習５	整形外科学領域における骨腫瘍についての基礎知識を学ぶ
6		柔整医学演習６	整形外科学領域における絞扼性神経障害、末梢神経障害についての基礎知識を学ぶ
7		柔整医学演習７	整形外科学領域における非感染性関節疾患　関節リウマチ　リウマチ類似疾患についての基礎知識を学ぶ
8		柔整医学演習８	総合演習　低正答問題の解説　整形外科学国家試験問題に対して習得した基礎知識を活かし、選択問題の傾向や解き方を、実践問題を通して習得する
9		柔整医学演習９	総合演習　低正答問題の解説　整形外科学国家試験問題に対して習得した基礎知識を活かし、選択問題の傾向や解き方を、実践問題を通して習得する
10		柔整医学演習１０	総合演習　低正答問題の解説　整形外科学国家試験問題に対して習得した基礎知識を活かし、選択問題の傾向や解き方を、実践問題を通して習得する
11		柔整医学演習１１	総合演習　低正答問題の解説　整形外科学国家試験問題に対して習得した基礎知識を活かし、選択問題の傾向や解き方を、実践問題を通して習得する
12		柔整医学演習１２	総合演習　低正答問題の解説　整形外科学国家試験問題に対して習得した基礎知識を活かし、選択問題の傾向や解き方を、実践問題を通して習得する
13		柔整医学演習１３	総合演習　低正答問題の解説　整形外科学国家試験問題に対して習得した基礎知識を活かし、選択問題の傾向や解き方を、実践問題を通して習得する
14		柔整医学演習１４	総合演習　低正答問題の解説　整形外科学国家試験問題に対して習得した基礎知識を活かし、選択問題の傾向や解き方を、実践問題を通して習得する
15		柔整医学演習１５	総合演習　低正答問題の解説　整形外科学国家試験問題に対して習得した基礎知識を活かし、選択問題の傾向や解き方を、実践問題を通して習得する

科目名【英】	柔整医学演習４ Medical Practice of judo Therapy 4			必修/選択	必修	授業形式	演習
				総時間数	15	単　位	1
学　年	3	学　期	前期	曜　日	金曜日	時　限	6

担当教員	井上　亜久吏	実務者経験	2015/4～2020/3　接骨院にて勤務

学習内容	西洋医学系の病気にまつわる内容を機序から症状、治療に関しての幅広い内容を学ぶ為の解剖生理学を学ぶ
到達目標	資格取得に必要な国家試験の内容を理解しながら問題演習を行うと共に卒後に役立つ知識・技術を幅広く習得し、説明できるようになる。

準備学習 時間外学習	時間外で問題等を使用し、復習および理解度を図り、次に繋げていけるようになる事が必須である。
使用教材	PC　　配布資料　　教科書【　解剖学　生理学　病理学（南江堂）】
留意点 備　考	強い気持ちを持って臨む

成績評価	定期試験100%

授業計画　【テーマ・内容･目標】			
1		代謝疾患	糖尿病について説明が出来るようになる
2		代謝疾患	糖尿病について説明が出来るようになる
3		神経系疾患１	脳卒中について説明することができる
4		神経系疾患１	脳卒中について説明することができる
5		神経系疾患２	パーキンソン病について説明することができる
6		神経系疾患２	パーキンソン病について説明することができる
7		神経系疾患３	伝導路疾患について説明することができる
8		神経系疾患３	伝導路疾患について説明することができる
9		神経系疾患４	筋萎縮性側索硬化症について説明することができる
10		神経系疾患４	筋萎縮性側索硬化症について説明することができる
11		神経系疾患５	脳神経が障害される疾患について説明できる
12		神経系疾患５	脳神経が障害される疾患について説明できる
13		筋系疾患１	進行性筋ジストロフィーについて説明することができる
14		筋系疾患２	重傷筋無力症について説明することができる
15		総まとめ	振り返りを行い、問題演習で理解しながら解けるようにする

科目名【英】	柔整医学演習５ Medical Practice of Judo Therapy 5			必修/選択	必修	授業形式	演習
				総時間数	30	単　位	2
学　年	3	学　期	前期	曜　日	月曜日	時　限	7

担当教員	松田　泰昌	実務者経験	2013年より整骨院にて整骨業務を行う

学習内容	現代医学的な観点から病理学、解剖学、を学ぶ柔道整復師としての必要な項目や幅広い視野をもち現代医学診断による病態把握を学ぶ
到達目標	病態細胞を学び、現代医学の臨床に応用可能な活用レベルにできる。かつ柔道整復師として国家試験に対応できるレベルに到達する

準備学習 時間外学習	解剖学生理学の予習が必要。病理学との関連性を把握する
使用教材	病理学　解剖学　生理学
留意点 備　考	パソコン　マウス　使用

成績評価	試験90%　小テスト10%程度を加味する

授業計画　【テーマ・内容･目標】			
1		病理学とは	【方法、研究試験による分類診察方法】病理学に対する基本的な知識と方法に説明が出来る
2		疾病の一般	【疾病の意義と分類疾病の分類病変と症候】疾病の分類や病気の状態を説明できる
3		細胞障害	【退行性病変、代謝障害、萎縮、変性、壊死】細胞の異常や分類を説明できる
4		代謝障害と疾病	【尿酸代謝異常カルシュム代謝異常、糖尿病、老化、壊死】代謝異常、糖尿病、黄疸などの説明が出来る
5		アポトーシスと死	【死の定義、死の判定、死後の変化】アポトーシスと死の違いを説明できる
6		循環障害1	【血液の循環障害、充血、うっ血虚血、出血血栓症】血液の循環障害やうっ血、虚血について説明できる
7		循環障害2	【塞栓症、梗塞、浮腫、脱水症】梗塞の種類浮腫の成因脱水症の説明が出来る
8		循環障害3	【高血圧症、高血圧症の分類】高血圧の病態生理を説明できる
9		進行性病変	【肥大、過形成、再生、化生】肥大過形成再生化生の分類について説明できるレベル
10		炎症	【炎症の分類炎症の原因炎症の形態による分類】炎症の病理解剖と原因分類を説明できる
11		免疫異常アレルギー1	【免疫の仕組み、免疫不全、後天性免疫不全症候群】免疫の仕組みと抗原、抗体、先天性後天性の免疫不全の説明が出来る
12		免疫異常アレルギー2	【自己免疫疾患、アレルギー】自己免疫疾患とアレルギー反応の分類、病態生理について説明できる
13		腫瘍	【腫瘍の定義、腫瘍細胞、腫瘍の組織構造生体への影響、発がんの原因腫瘍の分類】腫瘍について病態生理、解剖学的診断、分類の説明が出来る
14		先天性疾患	【先天性異常、遺伝子異常、染色体異常、奇形の原因、奇形成立の時期】先天性疾患の説明染色体異常の説明が出来る
15		病因	【病因の一般、内因、外因、遺伝、ストレス】病因の外因、内因について説明が出来る

科目名【英】	社会保障論 Social Security			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	15	単　位	1
学　年	3	学　期	後期	曜　日	木曜日	時　限	5

担当教員	丹生　利博	実務者経験	1985年10月から1993年3月まで、厚生省社会保険庁の淀川と吹田の社会保険事務所で事務官として勤務する。1997年5月から現在まで、にぶ整骨院で、鍼灸、柔道整復の施術をおこなう。

学習内容	柔道整復師として、開業したときに療養費の受領委任の理解が必要になることからも、社会保障論の知識を身につけることを目的とします。
到達目標	日本の社会保障制度の構造を理解し、柔道整復師として関わる保険制度と施術料金の算定ができるようにする。

準備学習 時間外学習	
使用教材	テキスト『社会保障制度と柔道整復師の職業倫理』
留意点 備　考	

成績評価	最終日に行う記述試験１００％

授業計画　【テーマ・内容･目標】			
1		オリエンテーション、社会保障制度	P1～4 社会保障制度の機能と構造に関して説明ができる
2		社会保険制度とは	P.5～7 社会保険制度の機能と構造に関して説明ができる
3		医療保険制度とは	P.7～9 医療保険の目的と現状に関して説明ができる
4		保険診療の仕組みとは	P.10～14 保険診療の制度の仕組みと現状に関して説明ができる
5		診療報酬制度とは	P.14～17 診療報酬制度の構造に関して説明ができる
6		柔道整復師業務における療養費とは	P.19～25 柔道整復療養費の受領委任に関して説明ができる
7		職業倫理とは	P.49～55 医療従事者の職業倫理に関して説明ができる
8		柔道整復師の社会的責任と対応とは	P.56～65 医療現場での問題と個人情報保護に関して説明ができる
9			

科目名【英】	柔整応用鑑別学 Judo Therapy Differential Diagnosis			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単　位	2
学　年	3	学　期	後期	曜　日	土曜日	時　限	5

担当教員	高橋　秀郎・水谷　遼香	実務者経験	高橋）医療法人　淳良会関目病院にて脱臼、骨折の整復固定手術助手　手術後のリハビリテーション担当　1993年9月～2013年4月 水谷）2017年～2019年鍼灸整骨院、リハビリデイサービスにて柔道整復師、機能訓練指導員として従事。

学習内容	柔道整復術が適用される疾患の鑑別
到達目標	医用画像から疾患を鑑別できるようになる。 柔道整復術の適否を判断し、患者にとって最適な治療環境を選択できるようになる。

準備学習 時間外学習	教科書を読んで予習・復習しておく。
使用教材	教科書『施術の適応と医用画像の理解』（南江堂）
留意点 備　考	

成績評価	期末筆記100%

授業計画　【テーマ・内容･目標】			
1		医用画像1	放射線の概要やＸ線像の一般撮影法を理解し、説明することができるようになる。
2		医用画像2	画像のデジタル化、ＣＴ画像の特性を理解し、説明することができるようになる。
3		医用画像3	ＭＲＩの見方を理解し、説明することができるようになる。
4		医用画像4	超音波画像装置について理解し、説明することができるようになる。
5		医用画像5	Ｘ線画像などを読影することができるようになる。
6		医用画像6	Ｘ線画像などを読影することができるようになる。
7		医用画像7	Ｘ線画像などを読影することができるようになる。
8		医用画像8	Ｘ線画像などを読影することができるようになる。
9		柔道整復術の適否	施術の適応判断の必要性について理解し、説明することができるようになる。
10		類似疾患1	損傷に類似した症状を示す内臓疾患を柔道整復術の適応症であるか峻別できるようになる。
11		類似疾患2	腰痛を訴える患者の判断と対応を理解し、説明することができるようになる。
12		血流障害・末梢神経損傷を伴う損傷	血流障害・末梢神経損傷を伴う損傷の判断と対応を理解し、説明することができるようになる。
13		脱臼骨折・外出血を伴う損傷	脱臼骨折が疑われる場合・外出血がある場合の判断と対応を理解し、説明することができるようになる。
14		意識障害・脊髄症状のある損傷	意識障害や脊髄症状がみられる場合の判断と対応を理解し、説明することができるようになる。
15		呼吸運動障害を伴う損傷	異常呼吸がみられる場合の判断と対応を理解し、説明することができるようになる。

科目名【英】	柔整医学演習６ Medical Practice of Judo Therapy 6			必修/選択	必修	授業形式	演習
				総時間数	15	単　位	1
学　年	3	学　期	後期	曜　日	月曜日	時　限	6

担当教員	松田 泰昌	実務者経験	2013年より整骨院にて整骨業務を行う

学習内容	現代医学的な観点から病理学、解剖学、を学ぶ柔道整復師としての必要な項目や幅広い視野をもち現代医学診断による病態把握を学ぶ
到達目標	外科学や病理学につながる解剖生理を学ぶことにより柔道整復師として臨床に応用できる知識を身に着ける

準備学習 時間外学習	解剖学生理学の予習が必要。病理学や外科学との関連性を把握する
使用教材	解剖学　生理学
留意点 備　考	パソコン　マウス　必要

成績評価	試験90%　小テスト10%程度を加味する

授業計画　【テーマ・内容･目標】			
1		代謝の仕組み1	代謝の仕組みと栄養学を理解しそれについて説明できる
2		代謝の仕組み2	代謝の仕組みと栄養学を理解しそれについて説明できる
3		呼吸器の構造1	呼吸器の構造と理解ができそれについて説明が出来る
4		呼吸器の構造2	呼吸器の構造と理解ができそれについて説明が出来る
5		脳の構造1	脳の構造と理解神経系の基礎が分かっておりそれについて説明できる
6		脳の構造2	脳の構造と理解神経系の基礎が分かっておりそれについて説明できる
7		髄膜と脳脊髄液	髄膜と脳脊髄液を理解しそれについて説明できる
8		終脳、大脳半球	終脳、大脳半球を理解しそれについて説明できる
9		間脳	間脳について理解しそれについて説明できる
10		脳幹	中脳、橋、延髄について理解しそれについて説明できる
11		小脳	小脳の構造と機能について理解しそれについて説明できる
12		脊髄1	脊髄の法則を理解しそれについて説明できる
13		脊髄2	脊髄の内部構造を理解しそれについて説明できる
14		中枢神経系	中枢神経系の結果脳構造を理解しそれについて説明できる
15		伝導路	伝導路の反射について理解しそれについて説明できる

科目名【英】	柔整医学演習７ Medical Practice of Judo Therapy 7			必修/選択	必修	授業形式	演習
				総時間数	15	単　位	1
学　年	3	学　期	後期	曜　日	火曜日	時　限	6

担当教員	東　正美	実務者経験	H16/4-H19/3行岡専門学校・付属接骨院所属

学習内容	国家試験問題を題材にして、各領域の人体構造と機能を復習する。 柔整医学演習14の授業内容を補足してより実践的な理解の定着を図る。
到達目標	それぞれの領域の国家試験問題を解答できる能力を養う。

準備学習 時間外学習	
使用教材	学校指定教科書　　生理学（南江堂）、解剖学（医歯薬出版）
留意点 備　考	

成績評価	学期末試験100%

授業計画　【テーマ・内容･目標】			
1		筋肉の構造と機能	筋肉の収縮機構について理解を深める。
2		筋肉の構造と機能	筋肉の種類とその特徴について理解を深める。
3		感覚器官系	感覚系の分類・特殊感覚について復習し理解を深める。
4		感覚器官系	特殊感覚についてその構造と機能の理解を深める。
5		感覚器官系	一般感覚について特徴と働きの理解を深める。
6		感覚器官系	各種感覚の伝導路について理解を深める。
7		内分泌	内分泌系の機能と構造についてを理解を深める。個々のホルモンの働きを再確認して理解する。
8		生殖	生殖器系の発生、それぞれの働きについて理解を深める。
9		生殖	性周期・妊娠でのホルモンの変化について理解を深める。
10		骨	骨の形成に関与するホルモンについて理解を深める。
11		消化吸収	消化器系の構造と消化酵素について理解を深める。
12		消化吸収	消化器系の機能調節方法について理解を深める。
13		代謝・体温	栄養素の体内での変化と体温調節について理解を深める。
14		成長・競技 の生理的変化	成長・競技に伴う身体の生理的変化について理解を深める。
15		総合復習	苦手領域の補足を行う。国家試験問題で学習内容の総復習を行う。

科目名【英】	柔整医学演習８ Medical Practice of Judo Therapy 8			必修/選択	必修	授業形式	演習
				総時間数	15	単　位	1
学　年	3	学　期	後期	曜　日	木曜日	時　限	6

担当教員	井上　亜久吏	実務者経験	2015/4～2020/3　接骨院にて勤務

学習内容	西洋医学系の病気にまつわる内容を機序から症状、治療に関しての幅広い内容を学ぶ為の解剖生理学を学ぶ
到達目標	資格取得に必要な国家試験の内容を理解しながら問題演習を行うと共に卒後に役立つ知識・技術を幅広く習得し、説明できるようになる。

準備学習 時間外学習	時間外で問題等を使用し、復習および理解度を図り、次に繋げていけるようになる事が必須である。
使用教材	PC　　配布資料　　教科書【　解剖学　生理学　病理学（南江堂）】
留意点 備　考	強い気持ちを持って臨む

成績評価	定期試験100%

授業計画　【テーマ・内容･目標】			
1		循環器疾患１	虚血性心疾患について説明することができる
2		循環器疾患１	虚血性心疾患について説明することができる
3		循環器疾患２	心臓弁膜症について説明することができる
4		循環器疾患２	心臓弁膜症について説明することができる
5		循環器疾患３	先天性心疾患について説明することができる
6		循環器疾患３	先天性心疾患について説明することができる
7		呼吸器疾患１	慢性閉塞性肺疾患について説明することができる
8		呼吸器疾患１	慢性閉塞性肺疾患について説明することができる
9		呼吸器疾患２	肺炎、肺癌について説明することができる
10		呼吸器疾患２	肺炎、肺癌について説明することができる
11		血液疾患１	貧血疾患について説明することができる
12		血液疾患１	貧血疾患について説明することができる
13		血液疾患２	汎血球減少症について説明することができる
14		血液疾患２	汎血球減少症について説明することができる
15		総まとめ	全ての総ざらいを行い国家試験に対応できる説明力をつける

科目名【英】	柔整医学演習９ Medical Practice of Judo Therapy 9			必修/選択	必修	授業形式	演習
				総時間数	15	単　位	1
学　年	3	学　期	後期	曜　日	土曜日	時　限	6

担当教員	竹田　英樹	実務者経験	1997年5月～2003年3月　整形外科医院にて勤務。 2003年9月～2008年2月　The Sydney Shiatsu Clinicにて勤務。 2008年3月～現在に至る　東洋医療専門学校附属整骨院にて勤務。

学習内容	疾病の機能解剖や発生機序・症状・所見・検査法・治療法を学ぶ。 各傷病の部位と病態を関連して学ぶ。
到達目標	疾患の特徴を説明し、柔道整復師国家試験の問題解説ができる。

準備学習 時間外学習	口頭試問マニュアルや柔道整復学の予習及び復習が必要。
使用教材	教科書『柔道整復学　理論編』（東洋療法学校協会編）　配布プリント
留意点 備　考	副教材として口頭試問マニュアルや柔道整復学の教科書を持参して受講することが望ましい。

成績評価	期末試験を実施し100%評価する。

授業計画　【テーマ・内容･目標】			
1		認定実技審査	骨折（鎖骨骨折など）の整復法・固定法
2		認定実技審査	脱臼（肩関節脱臼など）の整復法・固定法
3		認定実技審査	軟部組織損傷（肩腱板損傷など）の徒手検査法
4		認定実技審査	全ての骨折・脱臼の整復法・固定法、軟部組織損傷の徒手検査法
5		認定実技審査	全ての骨折・脱臼の整復法・固定法、軟部組織損傷の徒手検査法
6		認定実技審査	全ての骨折・脱臼の整復法・固定法、軟部組織損傷の徒手検査法
7		症例問題解説	総合判定試験の正答50%以下の問題や難問についての解説
8		症例問題解説	総合判定試験の正答50%以下の問題や難問についての解説
9		症例問題解説	総合判定試験の正答50%以下の問題や難問についての解説
10		症例問題解説	総合判定試験の正答50%以下の問題や難問についての解説
11		症例問題解説	総合判定試験の正答50%以下の問題や難問についての解説
12		症例問題解説	総合判定試験の正答50%以下の問題や難問についての解説
13		症例問題解説	総合判定試験の正答50%以下の問題や難問についての解説
14		症例問題解説	総合判定試験の正答50%以下の問題や難問についての解説
15		定期試験	軟部組織損傷について基礎的な問題を答えることができる。

科目名【英】	柔整医学演習１０ Medical Practice of Judo Therapy 10			必修/選択	必修	授業形式	演習
				総時間数	15	単　位	1
学　年	3	学　期	後期	曜　日	土曜日	時　限	6

担当教員	水谷　遼香	実務者経験	2017年～2019年鍼灸整骨院、リハビリデイサービスにて柔道整復師、機能訓練指導員として従事。

学習内容	資格取得に必要な国家試験の内容を理解しながら問題演習を行うと共に、卒後に役立つ知識・技術を幅広く習得する。
到達目標	国家試験問題を解答できる能力を養い、それぞれ説明することが出来るようになる。

準備学習 時間外学習	教科書を読んで予習・復習しておく。
使用教材	柔道整復学理論編第７版、柔道整復学実技編第２版、解剖学第２版、配布プリント
留意点 備　考	

成績評価	筆記100%

授業計画　【テーマ・内容･目標】			
1		股関節部の 軟部組織損傷	鼠径部痛症候群、股関節唇損傷、弾発股の特徴や病態が説明をできるようになる。
2		股関節部の 軟部組織損傷	ペルテス病、大腿骨頭すべり症、単純性股関節炎の特徴や病態が説明をできるようになる。
3		股関節部の 軟部組織損傷	大腿骨頭壊死、変形性股関節症、股関節拘縮の特徴や病態が説明をできるようになる。
4		下肢の 神経絞扼障害	梨状筋症候群、ハンター管症候群の特徴や病態が説明をできるようになる。
5		下肢の 神経絞扼障害	総腓骨神経絞扼障害の特徴や病態が説明をできるようになる。
6		下肢の 神経絞扼障害	足根管症候群、モートン病の特徴や病態が説明をできるようになる。
7		大腿部の 軟部組織損傷	大腿部打撲、大腿部肉離れの特徴や病態が説明をできるようになる。
8		膝関節部の 軟部組織損傷	ジャンパー膝、ブラント病、オスグッドシュラッター病の特徴や病態が説明をできるようになる。
9		膝関節部の 軟部組織損傷	分裂膝蓋骨、膝蓋軟骨軟化症、タナ障害の特徴や病態が説明をできるようになる。
10		膝関節部の 軟部組織損傷	腸脛靭帯炎、鵞足炎の特徴や病態が説明をできるようになる。
11		下腿の 軟部組織損傷	コンパートメント症候群、シンスプリントの特徴や病態が説明をできるようになる。
12		足部の 軟部組織損傷	足根洞症候群、腓骨筋腱脱臼、衝突性外骨腫の特徴や病態が説明をできるようになる。
13		足部の 軟部組織損傷	有痛性三角骨障害、有痛性外脛骨障害、足底腱膜炎、の特徴や病態が説明をできるようになる。
14		足部の 軟部組織損傷	第１ケーラー病、フライバーグ病、セーバー病、扁平足、外反母趾、強剛母趾の特徴や病態が説明をできるようになる。
15		総復習	試験解説、今までの内容についての補填

科目名【英】	柔整医学演習１２ Medical Practice of Judo Therapy 12			必修/選択	必修	授業形式	演習
				総時間数	30	単　位	2
学　年	3	学　期	後期	曜　日	月曜日	時　限	5

担当教員	松田　泰昌	実務者経験	2013年から整骨院にて整骨業務を行う

学習内容	現代医学的な観点から、外科学を学ぶ柔道整復師としての必要な項目や幅広い視野をもち現代医学診断による病態把握を学ぶ
到達目標	外科学を学び、現代医学の臨床に応用可能な活用レベルにできる。かつ柔道整復師として国家試験に対応できるレベルに到達する

準備学習 時間外学習	解剖学生理学の予習が必要。運動学と外科学の関連性を把握する
使用教材	外科学　副材料として解剖学生理学を持参する
留意点 備　考	パソコン　マウス　使用

成績評価	試験９０％　小テスト１０％を加味する

授業計画　【テーマ・内容･目標】			
1		外科学とは	外科学の歴史を学び現代との相違点を理解し説明を行う事が出来る
2		損傷	損傷の分類　損傷の治癒　交通事故外傷　特殊な損傷　熱傷を理解し説明する事が出来る
3		損傷	救急処置　熱傷の合併症を理解　気道熱傷　その他の損傷を理解し　説明する事が出来る
4		炎症と外科感染症	炎症と外科感染症　感染発症のメカニズム　静脈瘤　梅毒　真菌症　動物の噛み傷を理解し説明できる
5		腫瘍	腫瘍　概念　発がん　分類良性　悪性　上皮性　非上皮性癌を理解し説明する事が出来る
6		ショック	心臓性　血液分布異常性　閉塞性ショック血圧　対処法を理解し説明できる
7		輸血と輸液	輸血の適用　一般輸血　高カロリー輸液について理解し説明できる
8		消毒と滅菌	主な消毒薬　皮膚消毒　機械の消毒　エチレンガス滅菌について説明できる
9		手術	手術の分類　各種手術法　皮膚切開　止血　結紮について理解し説明できる
10		麻酔	概要　全身麻酔　局所麻酔　気管挿管　神経ブロック　緩和ケアについて理解説明できる
11		移植と免疫	同系移植　同種移植　臓器の保存について理解し説明できる
12		出血と止血	出血の分類　出血血管の分類　原因について理解し説明できる
13		出血と止血	鼻出血　喀血　吐血　腹腔内出血器械的止血　物理的止血　化学的止血について理解し説明できる
14		救急処置	新派蘇生法　心臓マッサージ　人工呼吸　AEDNについて理解し説明できる
15		テストの解説	テストの解説をし相互理解を深め　国家試験合格に向けて理解する

科目名【英】	柔整医学演習１３ Medical Practice of Judo Therapy 13			必修/選択	必修	授業形式	演習
				総時間数	30	単　位	2
学　年	3	学　期	後期	曜　日	月曜日	時　限	7

担当教員	姫　将司・水谷　遼香	実務者経験	姫）2010-2012整形外科で勤務、2012－2014接骨院勤務 2014－東洋医療専門学校専科教員　現在に至る 水谷）鍼灸整骨院、リハビリデイサービスにて柔道整復師、 機能訓練指導員として従事。

学習内容	資格取得に必要な国家試験の内容を理解しながら問題演習を行うと共に、卒後に役立つ知識・技術を幅広く習得する。 柔道整復師において必要なリハビリテーション医学ならびに機能訓練の知識を修得する。
到達目標	国家試験レベルの問題を6割正解できるようになる。

準備学習 時間外学習	解剖学、生理学、運動学の復習をおこなうことを勧める。
使用教材	ＰＣ　／　教科書『リハビリテーション医学』『柔道整復師と機能訓練指導』（南江堂）、配布プリント
留意点 備　考	

成績評価	後期末試験（筆記　100%）で評価する。

授業計画　【テーマ・内容･目標】			
1		リハ医学の概念１	リハビリテーション医学概論【概念・障害レベル】 障害分類について説明できる。
2		リハ医学の概念２	リハビリテーション医学概論【障害レベル・アプローチ・チーム医療】 障害分類に対応するアプローチについて説明できる。
3		基礎医学	リハビリテーションに関する基礎医学【障害学・神経解剖・神経生理・神経損傷】 末梢神経麻痺・中枢神経麻痺の違いについて説明できる。
4		評価と診断	評価と診断【ＡＤＬ】 ADLと評価法について説明できる。
5		治療学１	治療【理学療法・作業療法】 理学療法と作業療法の違いについて説明できる。
6		治療学２	治療【装具療法】 補装具の名称と適応について説明できる。
7		リハビリの実際１	各論【脳卒中①】 脳卒中の病態について説明できる。
8		リハビリの実際２	各論【脳卒中②】 脳卒中のリハビリテーションについて説明できる。
9		発達と老化の理解	サルコペニアとフレイルの違い、老化・高齢者特有疾患についてについて理解し、説明することが出来るようになる。
10		認知症の理解	認知症の原因・種類・症状・対応などについて理解し、説明することが出来るようになる。
11		ロコモティブシンドローム	原因・ロコモテスト方法・評価方法について理解し、説明することが出来るようになる。
12		介護保険制度	介護保険・要介護度・各種介護サービスについて理解し、説明することが出来るようになる。
13		高齢者介護とＩＣＦ	高齢者介護における目標、ICF、機能訓練実施計画書について理解し、説明することが出来るようになる。
14		機能訓練指導Ⅰ	機能訓練指導員の定義、機能訓練の流れ、機能訓練身体能力測定方法と評価方法について理解し、説明することが出来るようになる。
15		機能訓練指導Ⅱ	機能訓練の運動・要点・注意点について理解し、説明することが出来るようになる。

科目名【英】	柔整医学演習１４ Medical Practice of Judo Therapy 14			必修/選択	必修	授業形式	演習
				総時間数	30	単　位	2
学　年	3	学　期	後期	曜　日	火曜日	時　限	5

担当教員	東　正美	実務者経験	H16/4-H19/3行岡専門学校・付属接骨院所属

学習内容	国家試験問題を題材にして、各領域の人体構造と機能を復習する。
到達目標	それぞれの領域の国家試験問題を解答できる能力を養う。

準備学習 時間外学習	
使用教材	学校指定教科書　　生理学（南江堂）、解剖学（医歯薬出版）
留意点 備　考	

成績評価	学期末試験100%

授業計画　【テーマ・内容･目標】			
1		筋肉の構造と機能	筋肉の収縮機構について理解を深める。
2		筋肉の構造と機能	筋肉の種類とその特徴について理解を深める。
3		感覚器官系	感覚系の分類・特殊感覚について復習し理解を深める。
4		感覚器官系	特殊感覚についてその構造と機能の理解を深める。
5		感覚器官系	一般感覚について特徴と働きの理解を深める。
6		感覚器官系	各種感覚の伝導路について理解を深める。
7		内分泌	内分泌系の機能と構造についてを理解を深める。個々のホルモンの働きを再確認して理解する。
8		生殖	生殖器系の発生、それぞれの働きについて理解を深める。
9		生殖	性周期・妊娠でのホルモンの変化について理解を深める。
10		骨	骨の形成に関与するホルモンについて理解を深める。
11		消化吸収	消化器系の構造と消化酵素について理解を深める。
12		消化吸収	消化器系の機能調節方法について理解を深める。
13		代謝・体温	栄養素の体内での変化と体温調節について理解を深める。
14		成長・競技 の生理的変化	成長・競技に伴う身体の生理的変化について理解を深める。
15		総合復習	苦手領域の補足を行う。国家試験問題で学習内容の総復習を行う。

科目名【英】	柔整医学演習５ Medical Practice of Judo Therapy 5			必修/選択	必修	授業形式	演習
				総時間数	30	単　位	2
学　年	3	学　期	後期	曜　日	火曜日	時　限	7

担当教員	岩田　早紀	実務者経験	2013年4月～2017年3月　病院に所属 外来の物理療法をおこなう

学習内容	国家試験に必要な知識を取得し、また卒後に役立つ知識を幅広く取得する。
到達目標	国家試験の出題傾向を知り、80%の問題を解くことができるようになる。

準備学習 時間外学習	解剖学・生理学の教科書を熟読しておく。
使用教材	解剖学 改定第２版（医歯薬出版）、生理学 改定第４版（南江堂）、一般臨床医学改定３版（医歯薬出版） 配布プリント
留意点 備　考	授業終了後に講義内容の問題を網羅しておく。

成績評価	期末試験100%（筆記）

授業計画　【テーマ・内容･目標】			
1		泌尿器解剖分野１	泌尿器の構造仕組みを理解する。
2		泌尿器解剖分野２	泌尿器全体像を把握し理解する。
3		泌尿器生理分野１	泌尿器のはやらきを理解する。
4		泌尿器生理分野２	泌尿器全体像を把握し理解する。
5		泌尿器疾患１	腎疾患における特徴を知り理解する。
6		泌尿器疾患２	腎臓実質における疾患を理解する。
7		泌尿器疾患３	腎以外の泌尿器疾患を理解する。
8		内分泌総論	出題数の多い内分泌について総論を理解する。
9		内分泌解剖生理１	下垂体のホルモンを理解する。
10		内分泌解剖生理２	頚部のホルモンを理解する。
11		内分泌解剖生理３	胸腹部のホルモンを理解する。
12		内分泌解剖生理４	生殖器ホルモンを理解する。
13		内分泌疾患１	解剖生理を元にした内分泌の疾患を理解する。
14		内分泌疾患２	頭部から胸部にかけた内分泌疾患を理解する。
15		内分泌疾患３	腹部以降の内分泌疾患を理解する。

科目名【英】	柔整医学演習１６ Medical Practice of Judo Therapy 16			必修/選択	必修	授業形式	演習
				総時間数	30	単　位	2
学　年	3	学　期	後期	曜　日	水曜日	時　限	7

担当教員	竹田　英樹	実務者経験	1997年5月～2003年3月　整形外科医院にて勤務。 2003年9月～2008年2月　The Sydney Shiatsu Clinicにて勤務。 2008年3月～現在に至る　東洋医療専門学校附属整骨院にて勤務。

学習内容	疾病の機能解剖や発生機序・症状・所見・検査法・治療法を学ぶ。 各傷病の部位と病態を関連して学ぶ。
到達目標	疾患の特徴を説明し、柔道整復師国家試験の問題解説ができる。

準備学習 時間外学習	口頭試問マニュアルや柔道整復学の予習及び復習が必要である。
使用教材	教科書『柔道整復学　理論編』（東洋療法学校協会編）　配布プリント
留意点 備　考	副教材として口頭試問マニュアルや柔道整復学の教科書を持参して受講することが望ましい。

成績評価	期末試験を実施し100%評価する。

授業計画　【テーマ・内容･目標】			
1		認定実技審査	骨折（鎖骨骨折など）の整復法・固定法
2		認定実技審査	脱臼（肩関節脱臼など）の整復法・固定法
3		認定実技審査	軟部組織損傷（肩腱板損傷など）の徒手検査法
4		認定実技審査	全ての骨折・脱臼の整復法・固定法、軟部組織損傷の徒手検査法
5		認定実技審査	全ての骨折・脱臼の整復法・固定法、軟部組織損傷の徒手検査法
6		認定実技審査	全ての骨折・脱臼の整復法・固定法、軟部組織損傷の徒手検査法
7		柔道　必修対策	日本伝講道館柔道（嘉納治五郎・柔道の目的）、礼法（立礼・坐礼）について
8		国家試験対策	運動学について理解し、説明できる
9		国家試験対策	運動学について理解し、説明できる
10		国家試験対策	運動学について理解し、説明できる
11		国家試験対策	運動学について理解し、説明できる
12		国家試験対策	運動学について理解し、説明できる
13		国家試験対策	運動学について理解し、説明できる
14		国家試験対策	包帯学について理解し、説明できる
15		国家試験対策	包帯学について理解し、説明できる

科目名【英】	柔整医学演習１７ Medical Practice of Judo Thrapy 17			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	30	単　位	2
学　年	3	学　期	後期	曜　日	水曜日	時　限	7

担当教員	服部　博幸	実務者経験	1992年より病院並びに学校にて、鍼灸および柔道整復施術を行う。 2016年より通所介護事業も立ち上げ、従事している。

学習内容	上肢および下肢の骨折及び脱臼について部位ごとに学ぶ。
到達目標	臨床の場で使えるよう受傷原因から総合的に外傷を判断できるようになる。

準備学習 時間外学習	
使用教材	教科書『柔道整復学・理論編』（南江堂）、配布プリント
留意点 備　考	欠席された場合、次の授業に差し支えないよう配布プリントは事前にとりに来てください。

成績評価	筆記試験結果（100%）を元に評価する。

授業計画　【テーマ・内容･目標】			
1		柔道整復学演習１	【手・手指部の骨折・脱臼1】 手根骨骨折と脱臼について、理解を深める。
2		柔道整復学演習２	【手・手指部の骨折・脱臼2】 中手骨骨折と脱臼について理解を深める。
3		柔道整復学演習３	【手・手指部の骨折・脱臼3】 中手骨骨折と脱臼について理解を深める。
4		柔道整復学演習４	【手・手指部の骨折・脱臼4】 指骨の骨折と脱臼について理解を深める。
5		柔道整復学演習５	【手・手指部の骨折・脱臼5】 指骨の骨折と脱臼について理解を深める。
6		柔道整復学演習６	【手・手指部の骨折・脱臼6】 指骨の骨折と脱臼について理解を深める。
7		柔道整復学演習７	【上腕骨遠位端部骨折】 内側上顆骨折・外顆骨折・顆上骨折について理解を深める。
8		柔道整復学演習８	【前腕骨近位端骨折・脱臼1】 橈骨頭・頚部骨折、肘頭骨折、肘内障について理解を深める。
9		柔道整復学演習９	【前腕骨近位端骨折・脱臼2】 肘関節脱臼について理解を深める。
10		柔道整復学演習10	【前腕骨骨幹部の骨折1】 橈骨単独・尺骨単独・両骨骨折について理解を深める。
11		柔道整復学演習11	【前腕骨骨幹部の骨折2】 モンテギア・ガレアジ骨折について理解を深める。
12		柔道整復学演習12	【前腕骨遠位端部骨折および手関節周辺部の脱臼】 前腕骨遠位端骨折・手関節周辺部の脱臼について理解を深める
13		柔道整復学演習13	【試験解説】
14		柔道整復学演習14	【鎖骨骨折・脱臼、肩甲骨骨折】 鎖骨骨折・脱臼、肩甲骨骨折について理解を深める。
15		柔道整復学演習15	【練習問題とそのフィードバック】 代表的な過去の国家試験問題を解き、現在の知識レベルを確認する。

科目名【英】	柔整医学演習１８ Medical Practice of Judo Therapy 18			必修/選択	必修	授業形式	演習
				総時間数	30	単　位	2
学　年	3	学　期	後期	曜　日	木曜日	時　限	7

担当教員	井上　亜久吏	実務者経験	2015/4～2020/3　接骨院にて勤務

学習内容	柔道整復師の問診、視診、打診、聴診など疾病を鑑別するにあたり、必要なスキルを学ぶ。
到達目標	国家試験の問題がスラスラ解けるようになる。

準備学習 時間外学習	講義に関する内容の教科書の読了
使用教材	一般臨床医学、国家試験過去問題
留意点 備　考	

成績評価	定期試験100%

授業計画　【テーマ・内容･目標】			
1		診察概論 感覚検査	表在感覚と深部感覚について説明できるようになる。
2		診察概論 感覚検査	特殊感覚について説明できるようになる。
3		診察概論 感覚検査	反射について説明できるようになる
4		診察概論 視診	姿勢について説明が出来るようになる。
5		診察概論 視診	意識状態について説明が出来るようになる。
6		診察概論 視診	不随意運動・異常運動について説明が出来るようになる。
7		診察概論 視診	皮膚の異常について説明が出来るようになる。
8		診察概論 視診	顔面部・頸部の異常を説明出来るようになる。
9		診察概論 視診	胸腹部の異常を説明出来るようになる。
10		診察概論 視診	上肢の異常を説明出来るようになる。
11		診察概論 視診	下肢の異常を説明出来るようになる。
12		診察概論 打診	正常打診と異常打診について説明出来るようになる。
13		診察概論 聴診	正常聴診と異常について説明出来るようになる。
14		診察概論 触診	筋触診と圧痛点を説明できるようになる。
15		診察概論 触診	リンパ節の腫脹とその疾患について説明できるようになる。

科目名【英】	柔整医学演習１９ Medical Practice of Judo Therapy 19			必修/選択	必修	授業形式	演習
				総時間数	30	単　位	2
学　年	3	学　期	後期	曜　日	土曜日	時　限	7

担当教員	竹田　英樹	実務者経験	1997年5月～2003年3月　整形外科医院にて勤務。 2003年9月～2008年2月　The Sydney Shiatsu Clinicにて勤務。 2008年3月～現在に至る　東洋医療専門学校附属整骨院にて勤務。

学習内容	疾病の機能解剖や発生機序・症状・所見・検査法・治療法を学ぶ。 各傷病の部位と病態を関連して学ぶ。
到達目標	疾患の特徴を説明し、柔道整復師国家試験の問題解説ができる。

準備学習 時間外学習	口頭試問マニュアルや柔道整復学の予習及び復習が必要である。
使用教材	教科書『柔道整復学　理論編』（東洋療法学校協会編）　配布プリント
留意点 備　考	副教材として口頭試問マニュアルや柔道整復学の教科書を持参して受講することが望ましい。

成績評価	期末試験を実施し100%評価する。

授業計画　【テーマ・内容･目標】			
1		認定実技審査	骨折（鎖骨骨折など）の整復法・固定法
2		認定実技審査	脱臼（肩関節脱臼など）の整復法・固定法
3		認定実技審査	軟部組織損傷（肩腱板損傷など）の徒手検査法
4		認定実技審査	全ての骨折・脱臼の整復法・固定法、軟部組織損傷の徒手検査法
5		認定実技審査	全ての骨折・脱臼の整復法・固定法、軟部組織損傷の徒手検査法
6		認定実技審査	全ての骨折・脱臼の整復法・固定法、軟部組織損傷の徒手検査法
7		症例問題解説	総合判定試験の低正答率(正答50%以下）の問題について解説する。
8		症例問題解説	総合判定試験の正答50%以下の問題や難問についての解説
9		症例問題解説	総合判定試験の正答50%以下の問題や難問についての解説
10		症例問題解説	総合判定試験の正答50%以下の問題や難問についての解説
11		症例問題解説	総合判定試験の正答50%以下の問題や難問についての解説
12		症例問題解説	総合判定試験の正答50%以下の問題や難問についての解説
13		症例問題解説	総合判定試験の正答50%以下の問題や難問についての解説
14		症例問題解説	総合判定試験の正答50%以下の問題や難問についての解説
15		定期試験	軟部組織損傷について基礎的な問題を答えることができる。

科目名【英】	柔整医学演習２０ Medical Practice of Judo Therapy 20			必修/選択	必修	授業形式	演習
				総時間数	30	単　位	2
学　年	3	学　期	後期	曜　日	金曜日	時　限	5

担当教員	堀口 晃一	実務者経験	整骨院勤務　平成8年3月～平成17年7月(堀口)

学習内容	資格取得に必要な国家試験の内容を理解しながら問題演習を行う。
到達目標	卒後に役立つ知識、技術を幅広く習得し、説明できるようになる。

準備学習 時間外学習	配布したプリントを復習する、国家試験過去問を解いておく
使用教材	柔道整復学理論編、実技編、整形外科学
留意点 備　考	

成績評価	筆記試験100%

授業計画　【テーマ・内容･目標】			
1		骨盤部の損傷	骨盤骨骨折について理解し説明することができる。
2		股関節部の損傷１	大腿骨頭部骨折、大腿骨頸部骨折について理解し説明することができる。
3		股関節部の損傷２	大腿骨転子部骨折、大腿骨転子下骨折、股関節脱臼１について理解し説明することができる。
4		股関節部の損傷３	股関節脱臼２について理解し説明することができる。
5		大腿部の損傷	大腿骨骨幹部骨折について理解し説明することができる。
6		膝関節部の損傷１	大腿骨顆上骨折、大腿骨骨端線離開、大腿骨顆部骨折、内側側副靭帯付着部の裂離骨折について理解し説明することができる。
7		膝関節部の損傷２	脛骨顆部骨折、脛骨顆間隆起骨折について理解し説明することができる。
8		膝関節部の損傷３	脛骨粗面骨折、腓骨頭単独骨折について理解し説明することができる。
9		膝関節部の損傷４	膝関節脱臼、膝蓋骨骨折、膝蓋骨脱臼について理解し説明することができる。
10		下腿部の損傷１	下腿近位端部骨折、下腿骨幹部骨折について理解し説明することができる。
11		下腿部の損傷２	下腿遠位端部骨折、足関節の脱臼骨折について理解し説明することができる。
12		足関節部の損傷	足根骨骨折、足関節の脱臼、中足骨骨折について理解し説明することができる。
13		足・趾部の骨折 鎖骨部の損傷	趾骨骨折、鎖骨骨折、鎖骨の脱臼について理解し説明することができる。
14		肩関節部の損傷１	上腕骨近位端部骨折について理解し説明することができる。
15		肩関節部の損傷２	上腕骨骨幹部骨折について理解し説明することができる。

科目名【英】	柔整医学演習２１ Medical Practice of Judo Therapy 21			必修/選択	必修	授業形式	演習
				総時間数	30	単　位	2
学　年	3	学　期	後期	曜　日	木曜日	時　限	6

担当教員	林　宏明	実務者経験	2004年4月～2009年3月　鍼灸接骨院に所属し、施術をおこなう

学習内容	国家試験の必修問題に出題される実技範囲について学ぶ
到達目標	国家試験の必修問題を解くことができる。

準備学習 時間外学習	柔道整復学の予習及び復習が必要。
使用教材	教科書『柔道整復学　理論編』『柔道整復学　実技編』　配布プリント
留意点 備　考	柔道整復学理論編と実技編の教科書を持参して受講することが望ましい。

成績評価	期末試験100%

授業計画　【テーマ・内容･目標】			
1		定型的鎖骨骨折①	定型的鎖骨骨折について説明することができる
2		定型的鎖骨骨折②	定型的鎖骨骨折について説明することができる
3		上腕骨外科頸外転型骨折①	上腕骨外科頸外転型骨折について説明することができる
4		上腕骨外科頸外転型骨折②	上腕骨外科頸外転型骨折について説明することができる
5		上腕骨骨幹部三角筋付着部より遠位骨折	上腕骨骨幹部三角筋付着部より遠位骨折について説明することができる
6		コーレス骨折①	コーレス骨折について説明することができる
7		コーレス骨折②	コーレス骨折について説明することができる
8		第５中手骨頸部骨折①	第５中手骨頸部骨折について説明することができる
9		第５中手骨頸部骨折②	第５中手骨頸部骨折について説明することができる
10		肋骨骨折①	肋骨骨折について説明することができる
11		肋骨骨折②	肋骨骨折について説明することができる
12		肩鎖関節上方脱臼①	肩鎖関節上方脱臼について説明することができる
13		肩鎖関節上方脱臼②	肩鎖関節上方脱臼について説明することができる
14		肩関節烏口下脱臼①	肩関節烏口下脱臼について説明することができる
15		肩関節烏口下脱臼②	肩関節烏口下脱臼について説明することができる

科目名【英】	柔整医学演習２２ Medical Practice of Judo Therapy 22			必修/選択	必修	授業形式	演習
				総時間数	30	単　位	2
学　年	3	学　期	後期	曜　日	金曜日	時　限	7

担当教員	井上　亜久吏・堀口　晃一	実務者経験	井上）2015/4～2020/3接骨院にて勤務 堀口）整骨院勤務　平成8年3月～平成17年7月

学習内容	資格取得に必要な国家試験の内容を理解しながら問題演習を行うと共に、卒後に役立つ知識・技術を幅広く習得する。
到達目標	国家試験問題を解答できる能力を養い、それぞれ説明することが出来るようになる。

準備学習 時間外学習	別問題を用いて復習を徹底する。
使用教材	教科書『解剖学』（医歯薬出版）、『生理学』（南江堂）、配布プリント 『衛生学』（南江堂）、配布プリント
留意点 備　考	

成績評価	定期試験100%

授業計画 【テーマ・内容･目標】			
1		神経系①	解剖学的神経系基礎に関する問題を用いて正答および説明を行う事が出来るようになる。
2		神経系②	神経生理学基礎における問題を用いて正答および説明を行う事が出来るようになる。
3		神経系③	中枢神経系における問題を用いて正答および説明を行う事が出来るようになる。
4		神経系④	中枢神経系における問題を用いて正答および説明を行う事が出来るようになる。
5		神経系⑤	反射について問題を用いて正答および説明を行う事が出来るようになる。
6		神経系⑥	神経性調節について問題を用いて正答および説明を行う事が出来るようになる。
7		神経系⑦	脊髄神経系における問題を用いて正答および説明を行う事が出来るようになる。
8		衛生学	健康の概念・疾病予防と健康管理の国家試験を理解できるようにする。
9		衛生学	感染症の予防の国家試験を理解できるようにする。
10		衛生学	消毒の国家試験を理解できるようにする。
11		衛生学	環境衛生の骨化試験を理解できるようにする。
12		衛生学	生活環境・母子保健の国家試験を理解できるようにする。
13		衛生学	学校保健・産業保健の国家試験を理解できるようにする。
14		衛生学	成人・高齢者保険、精神保健の国家試験を理解できるようにする。
15		衛生学	疫学・衛生行政・地域保健の国家試験を理解できるようにする。